



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
4/5 (月)	+ 600	▲ 8,000	▲ 7,400	国庫短期証券 発行・償還(3M)	補完供給 + 300		海外: IMF 世銀春季会合 (~11日) 米: ISM非製造業総合景況指数 (3月)
4/6 (火)	+ 1,000	+ 1,000	+ 2,000				海外: IMF世界経済見通し
4/7 (水)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行(30年)	共通担保(全) ▲ 4,900		海外: G20財務相・中央銀行総裁会議 米: FOMC議事要旨 (3/16・17 開催分)
4/8 (木)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000				日: 貿易収支 (2月) 欧: ECB議事要旨 (3月会合)
4/9 (金)	▲ 1,000	▲ 21,000	▲ 22,000	国債発行(5年)			米: PPI (3月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初514兆9,200億円から始まった。その後、年度末の財政資金の払いにより、30日に518兆8,300億円、31日に522兆5,700億円まで増加したが、4月1日には2年債の発行により519兆9,800億円、4月2日には税保険揚げ等により、516兆7,000億円まで減少し越週した。

無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.014%から始まったが、年度末初となる3月31日は、ビットサイドの一部が調達を控えており、△0.044%と2020年9月以来の低水準となった。新年度からは大手行・地銀ともに調達を再開し、1日には△0.014%、三日積みの2日は△0.012%まで上昇し越週した。ターム物は4月スタートの1W~2W物を中心に、主に△0.010%~△0.005%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内で8日に貿易収支(2月)の公表などがあり、海外では6日のIMFの世界経済見通しの公表、7日のG20財務省・中央銀行総裁会議や米FOMCの議事要旨(3月16日・17日開催分)の公表、8日のECB議事要旨(3月会合)の公表などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.030 ~ 0.030
2M	△0.010 ~ 0.040
3M	0.000 ~ 0.070
6M	0.000 ~ 0.130

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.00
CP 3M	△0.070 ~ 0.00

### <レポ>

足許GC取引は週初△0.095%~△0.085%の出合い。期末初にかかる3月31日受け渡しの取引は△0.11%前後で出合い始めたが、一時△0.200%まで強含む展開も見られた。その後は△0.100%~△0.085%のレンジ内で徐々に上昇し、短期3Mの発行日である4月5日受け渡しの取引では、△0.080%~△0.070%まで取引された。SC取引では2年409~422回債、5年135~146回債、10年331~361回債、20年164~175回債、30年59~69回債、40年9~13回債などに引合いが見られた。

### <TDB>

4月2日の3M984回債(7/12償還)の入札は、最高落札利回り△0.0893%(前回債△0.0930%)、平均落札利回り△0.0930%(同△0.0990%)となった。

### <CP>

今週の入札発行総額は約1兆7,380億円で、週間償還額(約2兆9,000億円)に対し大幅に下回った。31日時点のCP市場残高は19兆6,775億円となり、4年1か月ぶりに前年同月比(20兆9,268億円)で減少となった。企業が期末の有利子負債圧縮を進めたことに加え、昨年から続くコロナ感染症拡大の警戒に伴う予防的な資金調達の動きが後退した模様。発行市場は、期明けの発行再開に伴い、石油業や卸売業等の一部業態で連日の大型発行が見られたが、全体としての案件数は限定的であった。発行残高は先週末の23兆8,173億円から、1日時点で20兆6,747億円に減少した。発行レートは、△0.08%台~0%近辺での出合いであった。

来週の週間償還額は、約1,200億円程度となっている。発行市場は、一般事業法人の発行再開が見込まれることから、発行超を予想する。発行レートは、新型コロナウイルスを背景に投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いが中心と思われる。日銀オペ等の対象銘柄や希少銘柄では、強いマイナスレートでの出合いを予想する。